

ここに注目！



5商店街組織を取りまとめるべくコンソーシアムが事務局機能を集約

ポイント

個別の商店街では人的・物的ともに制約があるため、5つの商店街組織を取りまとめるべく、コンソーシアムが事務局機能を集約。専従職員を配置し、対外的に窓口を設置するほか、5商店街が連携することで可能になった積極的な商店街活動について指揮を執っている。

【現状分析及び課題抽出】

Plan

マチの特色を活かして誘客・集客

中島地区の各商店街では、これまで個別に事業を行っていたが、職員も事務局拠点も無い中で、市民や他団体との日常的な連携が進みにくかった。市民アンケートでは「個店の魅力不足」「商店街の特色が分かりづらい」という回答があった。通行量調査では、公共施設や金融機関、病院等を利用する市民が一定数あったことから、商店街へ誘導する取組が課題と分析した。

同調査に基づき、コンセプトを「回遊ができる商店街」「コミュニティの場となる商店街」「多世代が訪れる商店街」に決定。また、予定される大型店のリニューアル・オープンまでに顧客の囲い込みと商店街のファンづくり推進を決め、地域商店街活性化事業を実施している。

【対応策の優位性】

Do

ネットワークを使い事業推進

地域の拠点として空き店舗を活用したサロンを開設し、バス待合・休憩所・フリースペースとして解放。シニアカーとベビーカーを無料貸出。チャレンジショップ・ボックスショップ・マザーズキッチン・赤ちゃんの駅を設置。サロン内に窓口となるコンソーシアム事務所を設け、市民・行政・教育機関・各種組織が集い、交流し、共に地域を考える場所となり、年間約15,000人が訪れる。アンケート調査から「店員のマナー・接客」「入りやすいお店づくり」等の意見を踏まえ、店主等の研修・勉強会開催、おもてなし三箇

基本データ

中島商店会コンソーシアム

所在地:北海道室蘭市中島町

人口:約9万人(室蘭市)

会員数:5商店街計212名(4商店街振興組合、1任意組合)

店舗数:5商店街計222店舗(買回品小売店52、

最寄品小売店34、飲食店41、サービス店67、その他28)

商店街の類型:広域型商店街

主な客層:主婦、会社員、高齢者

関連URL:<http://www.nakajima-s.com/index.html>

商店街概要

JR東室蘭駅の西側に広がるエリアで、なかじま商店街振興組合、中島中央商店街振興組合、シャンシャン共和国商店街振興組合、中島西口商店街振興組合、中島商店会の5組織で平成22年9月に「中島商店会コンソーシアム」を発足。平成24年4月に地域商店街活性化法の計画認定を受けた。製鉄所の城下町という性格が強く、産業構造の変化や人口減少、核店舗であった百貨店の撤退という逆境を乗り越えて、各種連携により地域の集客力・求心力を復活させている。



中島・ミニまち歩きツアー

条を制定。一店逸品運動、買い物めぐりツアーの実施で地域住民との関係を再構築した。大学生と事務局が考案した商店街キャラクター「ほとなる君」の関連商品を販売開始。大型客船入港日には外国人向けの日本文化体験イベント等を実施。サロン内のWi-Fi環境、通訳ボランティアの配置が口コミで広がり、多いときには1日300人の外国人が訪れる。

【効果の評価及び改善策】

Check-Action

効果は数値と聴き取りで確認

事業の継続により、大学生によるイベントやイス、テーブル等の製作、医師会との連携による市民健康講座、歴史文化団体や地元出身作家との街めぐりツアーなど取組が発展。市民団体やサークルのスペース活用も増加しており、年間 80 以上の企画を切れ目なく実施。これにより、空き店舗が2年間で 19 軒減少。人口減少下で、歩行者通行量は、平成 26 年 10 月調査では 7,828 人（前年比 27.8%増）と大幅に改善。地域住民からの意見・要望を常時受け付け、定期的な通行量調査、事業ごとのアンケートによる評価・チェックで、おむつ替えスペースの改修、若者視点でのマップづくり、買い物バスの増便など、ニーズに即した改善対応を行っている。

【実施体制等】

サポーターで運営費の一部捻出

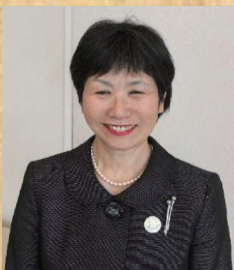
コンソーシアムに専任事務局長以下 2 名が常勤。各連携主体の関係者が「居酒屋塾こんそ」にて相互理解を深めている。チャレンジショップ等の出店料、居酒屋塾収益、協賛ネーミングライツ、市民・企業サポーター等により運営費を賄っている。



中島・まちなかライブラリー

キーパーソン

中島商店会コンソーシアム
代表幹事 小野寺 芳子



運営・事業ともキーワードは「連携」

西胆振唯一のデパートが平成 22 年に閉店、その危機感から生まれたのが中島商店会コンソーシアムです。JR 東室蘭駅西口側にある中島地区には計 5 つの商店街振興組合や商店会があり、それぞれにイベントなどを開催、運営も独自に行っていましたが、商店の減少、後継者難などから各団体とも大変な思いをしていました。

そこに核店舗となっていたデパートの撤退です。5 団体のトップらが集まり、出した結論が連携事務局であるコンソーシアムの設立でした。空き店舗を活用したコミュニティ拠点であるふれあいサロン「ほとな〜る」の運営とともに、連携事務局には専従職員を配置。これまで各団体では無理だった、国や自治体の商店街への施策を活用する事務機能が加わりました。

コンソーシアム設立後は各団体で行っているイベ

ントに他団体が協力するようになり、各種制度を活用した新しい事業推進とともに、日常的な連携はあっというまになりました。また、マチ歩きや健康講座など各種事業でも、大学が近くにある、病院など医療機関がたくさんある、といった特色を活かしながら、市民団体などと連携した事業がほとんど、といっても過言ではありません。

「ほとな〜る」商店街に一步ずつ

一団体では難しい運営や事業も「連携」と「ネットワーク」を活用してこの 4 年半を何とか乗り切ってきました。同時にこの期間、国の補助制度などを使わせていただいて、お金をそんなに掛けなくとも、市民講座やまちゼミなど、お客様から喜んでもらえる事業はたくさんあることを、実感として理解しました。マチの特性を活かした「商学連携」「医商連携」、そして市民団体とのネットワークで今後も事業を継続していこうと思っています。

もっとも頭の痛い課題は、ふれあいサロンの家賃や人件費など運営費の捻出ですが、できるだけ固定費を削減し、収益事業やサポーターをもっと増やす、行政の委託事業を受けるなどして、頑張りたいと考えています。サロンの名前のように「ほとな〜る」商店街づくりに、派手さはなくとも、地道に一步ずつ前に進んでいく覚悟です。